

## 2013年度の事業計画

### ◆はじめに

市民、団体、有識者、企業、行政、学校等多様な主体が幅広く連携し、環境保全活動を協働して展開する基盤としてネットワークの形成と拡大を図り、持続可能で豊かな社会の構築に向け、様々な場における行動と参画・協働を推進します。

また、公益財団法人移行に伴い、新制度に沿った組織運営を図り、公益財団法人移行記念事業を実施します。

#### (※1) 公益法人制度改革

2008年に公益法人に関する法律が改正され、すべての財団・社団法人は5年以内に新制度に基づく法人格に移行申請することが求められています。概要は、登記だけで法人格がとれる「一般財団法人」と、高い公益性を審査される「公益財団法人」に分かれることになります。

おかやま環境ネットワークは公益事業を行う法人であるため、「公益財団法人」へ移行しました。もともと環境保全のための公益活動を事業内容としてきましたので、公益財団法人に移行しても環境活動という事業内容については今までと変わりありません。

公益財団法人のメリットとして、社会的な信頼度が増すということ以外に、会費や寄附の金額に応じて所得控除の対象となります。

### 1. ネットワーク・広報・研究・助成事業

#### ①. 環境活動交流会 (旧ネットワークのつどい)

- ・交流強化を目的に、助成報告会、団体活動交流会として開催します。
- ・地域で環境活動に取り組んでいる様々な主体が、お互いに連携し協働するために、各主体が情報交換したり交流する機会をつくれます。

#### ②. ホタル団体交流会・ホタルフォーラム

- ・多くのホタルに関する取り組みを実施している団体や個人の参加のもと交流をすすめる、環境保全活動の前進を図ることを目的に、ホタル団体交流会を年3回程度、また、ホタルフォーラムを美咲町柵原で開催します。
- ・単行本「ホタルと人と文化」再版の準備をすすめます。

#### ③. ニュース、ホームページ、メールニュースの発行

- ・各媒体の特徴を活かし、多様な情報発信、情報共有、各主体の交流の促進と、事業への参加や協力を促します。
- ・ニュースは季刊発行とし、専門家、団体、市民、行政関係者、企業など様々な観点、立場から多様な考え方などの情報提供、活動紹介をすすめる、読者が複眼的に物事を捉える機会をつくることを目的とします。5月号を公益財団法人移行記念特大号とし発行します。
- ・メールニュースは月2回を基本に発行し、タイムリーな情報発信をすすめます。
- ・「活動紹介パンフレット」や「事業・決算報告並びに事業計画・予算書」を作成し、広く活動の理解につなげ、それらを活用した会員獲得にも取り組みます。

#### ④. 環境家計簿活動の普及

- ・環境家計簿の普及を通じ、具体的な削減意識を高め、家庭部門の本格的CO<sub>2</sub>排出削減をすすめる、くらしの見直しを図ります。
- ・引き続き、岡山市と協働で「環境家計簿レポート」、「環境家計簿カレンダー」を発行し啓発につなげます。
- ・「環境家計簿カレンダー」作成にあたり、公益財団法人移行記念事業として『未来に残したい岡山の自然・生き物 写真コンテスト』を実施します(作品は、環境家計簿カレンダー以外の広報物にも活用します)。
- ・大幅に増加した環境家計簿モニターの個人情報管理と効率的な集計作業をすすめます。

#### ⑤. 自然環境の研究・交流

- ・自然環境部会にて、県下の自然環境に関する研究・交流をすすめます。
- ・おかやま環境シンポジウムの開催については自然環境部会にて検討します。

## ⑥. 助成事業

- ・市内の環境団体の育成と環境問題の研究に対して財政的な支援を図ります。
- ・助成報告会は「環境活動交流会」にて、前年度助成全団体による活動報告とその講評を行います。
- ・「協働事業」として、千年の森づくりグループと「千年の森づくり感謝のつどい」を実施します。

## ⑦. 行政、他団体等とのつながり

- ・行政等との日常的なコミュニケーションを強め、委員会などの場で役割を發揮します。

## 2. 啓発事業

- ・環境問題は複雑な問題であり、ほとんどの人は、持続可能な社会を実現していきたいと考え、そして、その解決に向けて取り組んでいくべきだと考えています。しかし、取り組みの程度、タイミング、手法などの見方は、人によって異なります。そのギャップを少しでも埋めて、多くの人により良く諸問題を理解していくことをめざします。
- ・問題のとらえ方は一人ひとり異なり、最終的には価値判断を伴う問題であるため、意見が異なって当然であるということを前提に、広範にわたる複雑な問題を科学的な視点を踏まえ、客観的かつ公平な態度でとらえ、より良い情報整理、より良い情報発信を行い、各人の意思決定をサポートしていくことをめざします。
- ・関心の喚起、理解の深化を通じ、具体的な行動を促します。

### ①. 市民のための環境講座

- ・市民を対象に環境問題を正しく理解し、意識啓発や行動を促し、社会全体の持続可能性を形づくる基本概念を学ぶことを目的に全9回開講します。
- ・重要と思われる課題や、これからの社会はどうあるべきかを考える機会として、市民により良い情報を発信できるよう、多数の参加をめざし、テーマ設定します。

- ・公益財団法人移行記念事業として『里海づくり～市民と考える里海の姿～』をテーマに上期4回シリーズで、NPO 法人里海づくり研究会議と共催で開催します（協力：生活協同組合おかやまコープ）。里海づくりや沿岸環境の専門家から情報を発信し、市民と海の関わり方、里海の実像と重要性、これからの里海のあるべき姿などについて考えます。

## ②. 体験プログラム

- ・自然にふれあい、親しみながら、人間と環境との関わりや、豊かな環境とその恵みを大切に思う心をはぐくみ、命の大切さを学び、自然環境や普段の暮らしを考えるきっかけをつくることを目的に開催します。
- ・次世代を担う子どもたちが、体験や実践をとおし、関心を持ち、理解を深め、課題を見つけ、行動するという流れを大切に具体化します。
- ・他団体等との連携、協働をすすめます。
- ・公益財団法人移行記念事業として、河川、海岸、干潟や田畑、里地・里山などを環境学習の場として企画します。  
⇒『高島干潟観察会』『海ホテル観察会』『田んぼの生き物学校』『アマモ保全活動』『宇甘川いきもの調査会』などについて検討、具体化します。

## 3. 法人管理・会計等

### ①. 公益財団法人の組織運営

- ・新制度に沿った組織運営を図り、管理業務の効率化をすすめます。

### ②. 予算

- ・予算は収支均衡としコントロールします。